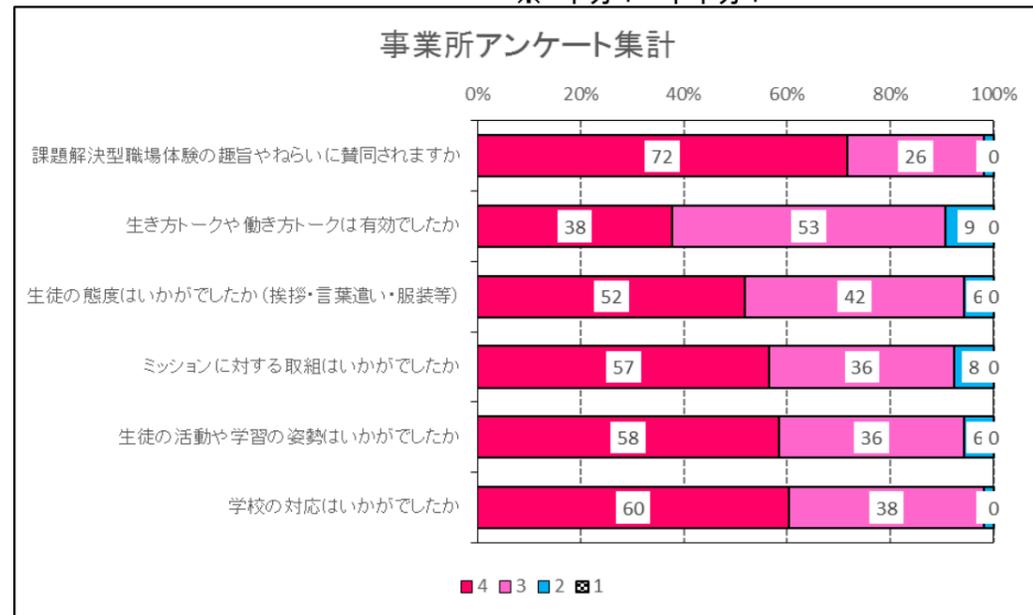


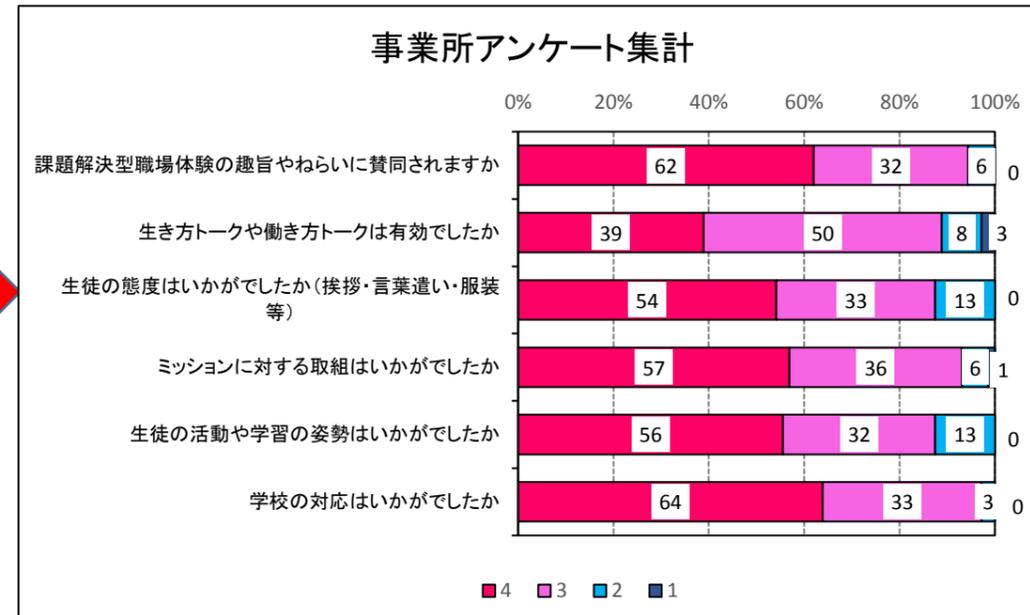
KST 課題解決型職場体験(事業所)集計表

<平成30年度>の結果

※ 十分4—不十分1



<令和元年度>の結果



<R元年度 事業所の感想>

- ・コミュニケーションの大切さやチームワークの大切さに気づき感じてほしいなと思うことを感じてくれていたのでよかったと思います。伝える難しさも感じたかもしれませんが、伝わらないときに次にどうしよう、どうやって伝えようかと考えることも大切だと思います。一人で困ったり悩んだりしたらチームに相談し、4人で協力し合っていた姿が印象的でした。
- ・職場体験で学んだことだけでなく、マップのルート提案や外国人への発信など、自ら考えた新しい解決策を提案していて素晴らしいと思いました。
- ・ミッションもヒントをもらい、オリジナルゲームができ、園児がとても喜んでいました。年に一回だけでなく、あと一回くらいあってもよいと思います。
- ・ミッション「市民に分かりやすい廃プラの分別ポスター(チラシ)を作ろう」という課題に対して、文章と絵を分担して担当するなど、効率よく作業を進める方法を習得しているなど感じました。貸し出したエプロン・帽子・手袋などをきちんとたたみ重ねるなど、とても気配りができていました。
- ・従来の職場体験はあまり企業側からの発信はなかったが、課題解決型職場体験は受け入れる企業側も、もっと会社のよさを中学生にアピールしていかないと、佐渡への定住には結びつかないと思います。
- ・建設業において一番の悩みは若年層の働き手がいないということです。体験を通して、建設業そのものを理解してくれたように思います。ミッション「どうしたら若い人が建設業に従事してもらえるか」を一人一人に考えてもらい発表してもらいました。参考になる意見も出ました。今後も中学生の目を通して、これからの建設業を考えてもらえる機会を作ってもらいたいです。
- ・生徒が会社製品等の説明を真剣に聞き、仕事することの大変さを知ろうとしている姿がとてもよかったです。ミッションについて事業所が提案するのではなく、学校や生徒が問題意識をもったものから提案してもらえると、事業所側も内容を把握しやすくなると思います。
- 「・佐渡が活性化したら、大学行った後、佐渡に帰りたいと思う。」その一言が聞けたのが何よりも嬉しかったです。